

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

Challenge, Change, Smile !

(自らの力を高め、視野を広げるためのチャレンジ、自分自身の可能性を高め、自己変革をめざすためのチェンジ、そして笑顔が絶えないスマイル)を合言葉に生徒が来たいと思う学校、来て良かったと思える学校をめざす。・・・そのために

- 1 生徒に「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させ、学力の向上に取り組む。
- 2 生徒が社会の一員としての自覚と規範意識を持ち、責任ある行動をとることができるよう生徒指導を充実させる。
- 3 生徒が学習活動・学校行事、部活動等に積極的に参加するとともに主体的に進路を選択し、豊かな自己実現を図れるよう支援する。
- 4 生徒が自らを律し他者を尊重し、思いやる心を持ち、人権や生命を尊重する精神を育む教育に取り組む。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 高大接続改革実行プランや新学習指導要領を踏まえ、主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ、わかる」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。
 - ア 授業力向上PTを中心に、これまでの取組みを強化し、更なる授業改善に取り組む。「ICTを活用した授業展開」や「アクティブラーニング（AL）」
 - イ 各教科は大学入試制度の転換に対応するため、3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。
 - ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。
 - *** 学校教育自己診断（生徒）「授業は分かりやすい」（H29：50%）を3年後には65%にする。
- (2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。
 - ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施により、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。
 - *** 学力生活実態調査で、生徒のゾーン占有率を年次進行で低下させない。3年後にはBCゾーンの低下率を-10%とする。
- (3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。
 - ア 英語検定、漢字検定を利用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。
 - イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。
 - *** 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標級の15P増をめざす。
 - *** 学校教育自己診断（生徒）「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」（H29：53%）を3年後には70%にする。

2 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 夢や目標を持った生徒の育成

- (1) 志学、キャリア教育、人権教育等について、「志を持ったよき社会人」として、自立と創造する力を養うための、志学・総合学習実施計画を推進する。
 - *** コア会議が核となって検討を進め平成30年度試行、31年度完成、32年度検証できるようにする。
- (2) 進路指導の充実を図る。
 - ア 進学希望者に対する講習会を分掌・教科が主導し、個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。
 - イ 就職希望者に対しては、面接指導と共にマナー・服装・態度・言葉遣いについての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。
 - ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立する。
 - *** 公募推薦等受験、一般受験での合格率を高める（H29：29.0%、12.1%）⇒ 3年後には45%、30%をめざす 就職一次内定率 100%をめざす
- (3) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。
 - ルール、マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。生徒に守らせるべき最低限のルール（港スタンダード）を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。
 - ア 「情報リテラシー」の育成 情報モラルの育成に努め、生徒が加害者にも被害者にもならないように、総合的な取組みを行う。
 - イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。
 - ウ 遅刻者数の減少に取り組む。
 - *** 学校教育自己診断（保護者）「生徒指導の方針に共感できる」生徒「先生は協力して生徒指導にあたっている」（H29：71%、48%）を3年間で共に80%にする。遅刻者数（H27：6300⇒ H28：6900⇒ H29：6700）を3年間で半減させる。
- (4) 「元気な学校づくり」特別活動や生徒会活動を通じて生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高める。
 - 必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導する。
 - ア 様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝えることに努め、部活動への参加・加入率を高める。
 - イ 学校行事で「人を育てる」生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定し、「学校が楽しい」と実感していただけるものにする。
 - ウ 生徒自治会活動を活性化すると共に生徒のリーダー育成に取り組む。
 - *** 部活動加入率（H29：52%）を3年間で65%にする。
 - *** 学校教育自己診断（生徒）「港高校に行くのが楽しい」「生徒であることに誇りを持っている」（H29：64%・38%）を3年間で80%・60%にする。
- (5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実
 - 教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。
 - *** 学校教育自己診断（保護者）「心身の悩みについて教育相談できるシステムが学校にあることを知っている。」・生徒「担任以外に気軽に相談できる先生がいる」（H29：37%、56%）を3年間で65%以上にする
- (6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む
 - ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ 人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的に推進する。
 - イ 「グローバル人材の育成」文化や習慣の違いを尊重する心をはぐくむとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。

3 学校運営体制の強化・改善 → 信頼される魅力ある学校づくり

- (1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となって学校経営戦略の具体化を推進する。
 - ア 各分掌が主導で校務にあたり、プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止。学年は学年団として機能し担任団という考え方は廃止。
 - イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。
 - ウ 「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。
 - *** 学校教育自己診断（教員）「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」（H29：45%）を3年間で65%とする。
- (2) 「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る
 - 初任者等教職経験年数の少ない教職員の資質・能力の向上、学校経営の中核を担うミドルリーダーの育成を図る校内研修を充実すると共に中堅・ベテラン教員が初任者及び若手教員の育成を担当することで自らの力量を高める。(OJT)
- (3) 広報活動と地域連携の充実
 - ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。
 - イ 地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立110周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携態勢を推進していく。
 - *** 学校教育自己診断（保護者）「港高校のHPをよく閲覧する」（H29：43%）を3年間で60%とする。
- (4) 教職員の長時間勤務の縮減 時間外労働縮減に向けた取組みの促進や勤務時間管理及び健康管理を徹底。
 - *** 時間外労働時間において、3年後には20%以上削減とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 11 月実施分]	学校運営協議会からの意見																								
<p>回収率</p> <table border="1" data-bbox="121 350 938 507"> <thead> <tr> <th></th> <th>1 年生</th> <th>2 年生</th> <th>3 年生</th> <th>全学年</th> <th>回収率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>273</td> <td>294</td> <td>267</td> <td>834</td> <td>93.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>175</td> <td>137</td> <td>197</td> <td>509</td> <td>56.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>43</td> <td>78.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の回収率が 55 から 43 (-17.8%) となった。生徒・保護者の回収率もそれぞれ-3.8%となった。すべてにおいて回収率をUPさせたい。</p> <p>実施対象 (教職員・1～3年生全生徒・1～3年生全保護者)</p> <p>◎ 生徒向け、保護者向けには16の質問項目を設定し、授業や進路指導、生徒指導や教育相談体制、学校行事などについてアンケートをとった。また、教職員へは26の質問項目で振り返りのアンケートをとった。保護者からのアンケート回収率は60%を超えず、教育活動への関心の低さが伺える。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒・保護者・教職員の順で、おおよそ高い肯定回答が寄せられ、一定の教育活動の評価や満足度が確認できた。教職員の集計結果は、学校組織体制の見直しや教員間での信頼関係の構築など、前向きな意見が見られた。</p> <p>◎ 集計結果については、生徒や保護者へフィードバックをし、教職員については昨年度との比較や今年度の分析と共に配布をし、教育活動の見直し・振り返りを図った。さらに、学校HPに結果をアップし、地域・保護者にも伝えた。</p> <p>◎ 生徒アンケートでは、 【学習面】 「先生は教え方にさまざまな工夫をしている」「将来の進路や生き方について考える機会がある」「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」などの設問で肯定的な回答が多いが「学校の授業はわかりやすい」の肯定値が低いことが課題。研修、相互授業見学、他校見学、補習、講習等、努力と工夫を重ねていく。</p> <p>【授業以外】 「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」「保護者あての学校からの配布物は保護者に手渡している」では肯定値が高い生徒が多い。特にこのことは、家庭との連携を取っていくうえで大切なことで、さらに工程値を上げていく必要がある。</p> <p>【否定的な意見が多い項目】 「港高校の生徒であることに誇りを持っている」の肯定値が低い また、「学校の規則やルールをよく守っている」や「先生は協力して一致した指導に当たっている」「先生が行っている指導には納得できる」の肯定値も低い さらに、「清掃活動はきちんと行われている」の肯定値が低いことは、改善していかないといけない。</p> <p>◎ 保護者アンケートでは、 「子どもは学校に楽しく通っている」 「通知票を各学期、各考査ごとに確認している」 「学校を訪れた時、清掃活動が行われていると感じる」 「学校行事では、子供は楽しそうにしている」 の質問に対して肯定値が高い。保護者は肯定的に見ている。 ・しかし、生徒本人達の感覚と温度差がある。 生徒「行くのが楽しい」 肯定 64% 保護者「楽しく通っている」 肯定 84% 教職員「生徒は学校生活を楽しんでいる」 肯定 77% 「HPを閲覧するときがある。」が昨年度より10%肯定値が上がった。 ・保護者は学校に協力的な視点を持ちある程度信頼を寄せていただいている。この評価に安心することなく、保護者、地域のご意見をいただきながら努力していかねばならない。</p> <p>【アンケートからみる来年度に向けての課題】</p> <p>① 保護者・教職員からのアンケート回収率の上昇（回収率 UP への努力）</p> <p>② アンケート結果の温度差の是正（保護者と生徒の肯定感の差）</p> <p>③ 生徒・教職員の学校の生徒指導方針についての肯定感 UP へ</p> <p>④ HPのさらなる充実・更新回数UP・閲覧回数UPへ</p> <p>⑤ 清掃活動実施の肯定感をUPへ</p> <p>⑥ 授業理解度の肯定感をUPへ</p>		1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率	生徒	273	294	267	834	93.0%	保護者	175	137	197	509	56.8%	教職員	-	-	-	43	78.2%	<p><第1回学校運営協議会></p> <p>(1) H30 学校運営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・倍率の増加・男女比の変化・港区中学生の志願者、合格者数の減少 ・学力の差・港高校に誇りをもっているという質問に対しての肯定的回答が3割程度 → 以上の問題点解決に向けて努力 <p>(2) 本校の現状と課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化粧等、生徒指導の指導レベルについてあげていくことが倍率増加につながる。 ・進路指導は上位層だけでなく下位層にも必要。 ・高倍率になったことにより生徒の期待(進路等)に答えていくことが必要 ・ただあいさつするだけでなく「笑顔であいさつ」ができる生徒を育成 ・伝統がある学校や交通の便がいい学校の人気が高い。中学生は学校の雰囲気、中学校の先生はその高校の出口がしっかりと整っているかを見ている。→進路活動の広報の強化が必要 ・HPの閲覧数の低さは更新率の低さと気になる情報の少なさが原因ではないか ・学校経営計画についての目標設定に対しての消化不良がおきないか心配である ・難関大学合格もめざすべき目標ではあるが、希望進路実現率100パーセントをめざしては？ <p><第2回学校運営協議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ加入率のさらなる上昇に取り組む。女子生徒の比率が高いので文化部で増やす。他校では軽音とダンスが盛ん。軽音は最大規模部活だが、それゆえ指導が難しい。 ・クラブ7, 8割加入の学校だとダンスや軽音は100人越えも普通。 ・新入生のクラブ体験に今年は変化。来年のクラブ体験は、基本的には今年を踏襲。 ・学校が元気になるきっかけになればと表彰制度を検討。委員会を設置したい。贈答品を検討。 ・部活動の活動制限について対応策を考える。部活休日や活動時間の規定、HPでの活動計画や活動実績の報告が義務付けられる。部活動促進をどのように実現するか。 ・薬物乱用問題が懸念。大阪は検挙率が高い。大阪府警も警戒している。 小中でも学んでおり、校内実施の講義アンケートからも、表面的には問題がなさそう。 ・港高生として誇りを持たせるためにどうすればいいか？ 教職員が組織的に動き、港高校に誇りを持つ。進路や成績以外にも、体育祭などアピールポイントが増えることも魅力に繋がる。 「モノづくりのまち港区」という地の利をいかし、区とタイアップして職場見学を実施しては。リバネスという企業がベンチャー支援をしている。 <p><第3回学校運営協議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生の幼少期からの挨拶習慣の欠如・・・敬語や話し方など、指導しても、「わからん」と答えるなど、依然より悪化している印象 ・遅刻・・・遅刻数、懲戒件数の増加は進路実績が下がる傾向、という印象。 ・部活動の今後・・・休みの確保は基準が決められている。自主練の強制はできない。練習の質を上げるしかない。部活は結果よりも楽しむため、となる可能性も。一方、私学も規制。公立よりは自由度があるが、文化系も含め縮小傾向。 ・新課程WTの役割について。「総合的な探求」がキーのひとつだが、それとともに、本校の生徒に必要な能力ー日本語と英語ーを重点に配分。 ・「学校に行くのが楽しい」・・・生徒、保護者、教員の意識のずれ。自由記述からも、「楽しい」の基準が「生徒指導を緩くして」という風に読み取れる。 ・「教員が協力し、一致した生徒指導」・・・保護者も生徒も5割以下。学校として指導、が実感されていない。中学生の保護者は、「生徒指導をもっと厳しく」。中学生は「港は規則が緩そう」。地域での生徒の様子が港のイメージにも影響。 ・「授業が分かりやすい」・・・保護者と生徒は5割以下。教員は「工夫している」の数値が高いが、チームとしての授業改善の試みは低評価。工夫が成果として感じられていない。授業規律を正さない、ひいきしている、と感じさせているようなも課題。 ・「保護者の来校率」・・・行事の工夫は86%が高評価。来校していただいた方の評価は高い。 ・学校が生徒をきちんと見てくれている、と感じてほしかった。家庭への電話連絡や、特に家庭訪問を今年度40件実施と推進しており、次年度も強化したい。 ・学校の文書などが届いていないようだ。さくら連絡網を始めた。天災にたいして情報更新が遅い、という声に対して、連絡網の加入率を高め、活用を進めたい。 ・保護者のアンケート回収率・・・56.8% → 数字をそのまま受け取るべきではない。回答していない人が、不満、行事未参加、子供が楽しそうにしていない、という可能性。 ・「清掃活動」・・・教員は44%肯定、56%は否定的。生徒と教員が否定的、は課題。 ・「プリントやICTの工夫」・・・生徒の7割が評価、は胸を張れる。港の特色。 ・保護者の回収率が下がった。次年度は上げる。教職員の回収率が、提出の声掛けをなくすことで100%から78.2%に。上げなければならない。
	1 年生	2 年生	3 年生	全学年	回収率																				
生徒	273	294	267	834	93.0%																				
保護者	175	137	197	509	56.8%																				
教職員	-	-	-	43	78.2%																				

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確 か な 学 力 の 育 成	<p>(1) 主体的・協働的な学びの推進、「学ぶ楽しさ、わかる喜び」を実感させる授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>ア 授業力向上PTを中心に授業改善の取組を強化し、更なる授業改善に取り組む。「ICTを活用した授業展開」や「AL」について研修・研究をする。</p>	<p>(1) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員研修の実施、他校への授業見学や研修参加等により研究を進め、ICT活用、主体的・協働的な学びを取り入れた授業改善に取り組む。 6月：授業観察デイ、11月：各教科での研究授業、1月：成果・課題の発表会、3月まとめを実施。 ※台風休校の授業補てんのため部分的に中止した。 ・授業改善のための校内研修を複数回実施 ・全教員による相互授業見学をさらに発展させる。 ※H31には相互授業見学をメインにすることを決定 ・授業アンケート後の振り返りシートの提出を必須とし、それを活用した授業改善の取組を推進 ・ALやICTを活用した授業を行う教員の割合を増やす。 	<p>(1) 学校教育自己診断（教員）ア「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に活かしている」、「授業方法等について検討する機会を積極的にもっている」(H29：51%、84%) ⇒ 65%・85%に</p> <p>振り返りシート提出率 (H29：100%) ⇒ 100%</p> <p>「教員間で授業方法について検討する機会を積極的に持っている」、「効率よく授業を進めるためにICTを活用している」(H29：84%、67%) ⇒ 85%・70%以上に</p>	<p>(1) (△)</p> <p>ア (△)</p> <p>「評価を行い次年度の計画に活かしている」 58%</p> <p>「検討する機会を積極的にもっている」 63%</p> <p>※台風による予定変更の影響が大きい</p> <p>振り返りシート提出率 100%</p> <p>「検討する機会を積極的に持っている」 63%</p> <p>「ICTを活用している」 79%</p>
	<p>イ 各教科は3年間を見通した指導内容や指導方法、評価の見直しを図り、観点別評価を確立する。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての教科で評価の仕組みを見直す ・すべての教科で指導と評価の年間計画(シラバス)を検証 	<p>イ</p> <p>「教科会において指導法についての議論や研究、教材開発に取り組んでいる」(H29：52%) ⇒ 65%</p> <p>「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H29：53%) ⇒ 65%</p>	<p>イ (△)</p> <p>「指導法について取り組んでいる」 47%</p> <p>「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 50%</p> <p>※授業観察では、6～7割</p>
	<p>ウ ベル始め、授業準備を徹底し授業規律を確立することで、授業を「真剣勝負の場」とする。</p>	<p>ウ 授業の場が最大の生徒指導であるという自覚の下、全教員が授業で生徒にしっかりと向き合う。指導に従わない時は、放置せず担任、副担任と連携して粘り強く指導に当たる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年団単位で、授業開始前のルーティーンを作成 ・授業準備・机上整理についての具体的な指導方針の作成 	<p>ウ ベル始め実施率（授業観察時評価）85% ⇒ 90%</p>	<p>ウ (◎)</p> <p>ベル始め実施率 100%</p> <p>※ 学年で授業開始前のルーティーンを作成し実施</p>
	<p>(2) 成績中位者層・成績不振者層に対する指導の充実により、基礎学力の定着を図るとともに家庭での学習習慣を確立させる。</p> <p>ア 「習熟度別・少人数展開授業」の実施などにより、生徒の学力実態・進路希望実態に応じた「わかる授業」を推進する。</p>	<p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績不振者の指名補習を学年で実施 ・不振者課題の「マスト提出指導」を学年で実施 ・生徒の学習時間の増加をめざす取り組みを実施。 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数展開授業の効果的な展開 	<p>(2)</p> <p>指名補習実施日数 マスト提出指導実施回数 ⇒ 3学年で行う 「授業は分かりやすい」(生徒)(H29：50%) ⇒ 60% 「教え方に工夫をしている」(H29：69%) ⇒ 75%</p>	<p>(2) (○)</p> <p>指名補習実施日数 1 2年不振者講習…教科対応 3年不振者講習…年間8回 マスト提出指導実施回数 1年のべ60日、23年は教科で「授業は分かりやすい」49% 「教え方に工夫をしている」 71%</p>
<p>(3) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定を利用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p>	<p>(3) 全員が英検（orGTEC）、漢検の何れかの級または両方を取得する。年次進行で、3年間のデザインを確立する。</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝のSHRなどを利用した学習形態の確立 ※ H31にむけて、1年生は通年を通して実施。2年生は英検対策プリントなどを実施。 	<p>(3) ア 受験者数・合格者数 (H29) 1年は全員受験 2.3年の英検受験者数のべ163名 2.3年の漢検受験者数のべ32名 ⇒ 1・2年は全員受験 3年の英検受験者数50名 3年の漢検受験者数30名</p>	<p>(3) (○)</p> <p>ア (○)</p> <p>1年GTEC全員受験 2年英検全員受験（2級1名、準2級12名合格） 3学年で希望者の英検受験（2級1名、準2級2名合格） 1年漢検全員受験（2級1名・準2級5名合格）</p>	
<p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組を推進する。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークなどを用い、アクティブラーニング（AL）的な授業展開を増やす。 ・他校との授業交流 <ul style="list-style-type: none"> ・移動式の長机や椅子を完備した、アクティブラーニングに適した部屋を確保 	<p>イ</p> <p>「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(H29：53%) ⇒ 65%</p>	<p>イ (△)</p> <p>「自分の考えをまとめたり発表する機会がある」 50%</p> <p>※授業観察では、6～7割</p> <p>※他校授業観察5校予定</p> <p>※会議室に移動式の長机や椅子を完備</p>	

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・夢や目標を持った生徒の育成</p>	<p>(1) 志学、キャリア教育、人権教育等について、「志を持ったよき社会人」として、志学・総合学習実施計画を推進する。</p> <p>(2) 進路指導の充実を図る。</p>	<p>(1) コア会議において検討。学年毎の計画から、学校全体として3年間を見通した計画へ。平成31年度で3学年がトータルデザイン完了。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度年間行事予定作成前に志学・総合学習実施計画を完成させる <p>(2) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自習会の実施・土曜講習・長期休業中講習の実施など、放課後や土曜日の有効的な利用(1年次後半から進学講習を実施) ※1年次前半から進学講習を実施 ・学習チューター・進学主担・学年主任・進路主担の連携を強化 ・進路指導部と教科・学年との連携した進学に向けての講習実施のために進学主担者がイニシアチブをとる。 ・自習室の確保と自習の計画と運営 ※7クラスによる空き教室利用 ・勉強合宿の企画や大学見学や大学施設での自習や講習会の企画 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「総合的な学習の時間」を柱にキャリア教育を展開し、生徒の進路意識、積極性、自立心を育み進路を保障。 ・1年次から進路情報を提供し、進路意識の向上を図る(活躍する卒業生や大人への聞き取りの企画・実施) ・同窓会との連携。生徒就労意識を育てる。 ・インターンシップや応募前職場見学の実施 ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し進路の各係りが運営実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育の再構築のための組織を編成 ・7月12月の考査後の期間に、有効な進路イベント導入 ・3年間の進路指導マップを全学年で共有し活用。(合格者登校/進路オリテ/進路説明会などの場面で活用) ・3年生になるまでの早い時期に進路希望未定者と目的意識の薄い専門学校希望者へのアプローチを強化。 <p>(3) 厳しく鍛え暖かく寄り添う生徒指導を推進</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSなどインターネットの使用についての講習などを企画 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が率先して笑顔で挨拶を行う。 ・指導に齟齬が出ないよう、生徒に守らせるべき最低限のルール(港スタンダード)を徹底し、組織的・統一的な指導を行う。 ・担当者格差・学年間格差が出ないように連携を密に取り、全教職員が一致協力して生徒指導に当たる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解に努め、家庭連絡や生徒への声かけを心がける ・基本的な生活習慣の確立 ・担任・学年生指の指導の部分で新たな指導方法を検討実施し、生指部本体での指導数を食い止める <p>(4) 必要性の少ないアルバイト従事から部活動・生徒会活動・自己実現活動へと生徒の価値観を移行させる事を、全教職員が共通認識して指導</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。※新しい取り組みの実施 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施 ・地域連携を強め地元中学生との連携を強める ・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら企画・立案・運営できる学校行事を設定。 ・学校行事への生徒の取り組みに工夫をし、「達成感・成就感」を体感できるものにする。 	<p>(1) 検討の進捗状況 (H29:25回) ⇒ 30回 港マップの作製進捗状況</p> <p>(2) ア 講習などの実施頻度 (H29の2倍の量と期間)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路指導部からの新しい取り組みや発信の数 ・4年制大学への進学者 (H29:43%) ⇒ 45%に ・4年制大学・短大への進学者 (H29:52%) ⇒ 55%に ・公募推薦等受験、一般受験での合格率を高める (H29:29.0%、12.1%) ⇒ (35%、20%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率 (H29:53%) ⇒ 80%に ・学校斡旋就職決定率 (H29:100%) ⇒ 100%に ・インターンシップ参加人数 ・応募前職場見学参加人数 ・各講座実施回数 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未決定者や専門学校進学割合を減少させ4年制短大進学を増加 その他 8% (-5%) 専門学校進学 33% (-10%) 4年制短大進学 44% (+15%) 就職 5% <p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講習や研修の実施状況 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校協議会での意見、外部(来校者)評価 保護者「生徒指導の方針には共感できる」(H29:71%) ⇒ 80% 学校教育自己診断(生徒)「先生は協力して生徒指導に当たっている」 (H29:48%) ⇒ 60% <p>ウ 遅刻者数 H29(6700件) ⇒ 5000件へ 20%減</p> <p>(4) ア 部活動加入率 (H29:52%) ⇒ 60%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験行事の回数を増やす (H29:2日) ⇒ 5日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数 ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や講習会の実施数 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」を (H29:64%) ⇒ 70% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(H29:71%) ⇒ 75% 	<p>(1) (○) 将来構想会議…23回実施(年間で30回予定)</p> <p>総合学習実施計画と来年度年間行事予定作成をリンクさせ検討</p> <p>(2) (○) ア (○) 講習などの実施頻度</p> <p>1年…英数国週1回で15~20回</p> <p>2年…理系中心に週1回</p> <p>3年…教科中心に適宜実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績上位者抽出面談延べ5回、SS振り返り会2回、校内模試3回、進路HR4回、進路ニュース発行11回予定、保護者向け進路説明会新たに1回(11月)進路HR4回 ・大学等見学会実施 ・学年ごとに自習会実施 ・4年制大学への進学者…30% ・4大短大への進学者…40% ・公募、一般での合格率…13%・4% <p>イ (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1次就職試験決定率…72.2% ・学校斡旋就職決定率…100% ・インターンシップ参加人数(70名) ・応募前職場見学参加人数72名 ・就職講座実施回数…12回 <p>ウ (△)</p> <p>その他 17% (+9%)</p> <p>専門学校進学 36% (+3%)</p> <p>4年制短大進学 40% (-4%)</p> <p>就職 7% (+2%)</p> <p>※学校見学会や仕事体験などの校外イベントの実施</p>
	<p>ア 進学希望者に対する講習会を分掌・教科が主導し、個々の目標や能力に応じた進学講習体制の充実により、生徒の進路実現に取り組む。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職講座・公務員講座・看護医療講座などを企画し進路の各係りが運営実施。 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」を (H29:64%) ⇒ 70% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(H29:71%) ⇒ 75% 	<p>(3) (○) ア (○) 講習や研修各学年2~3回実施</p> <p>イ (△) 肯定的評価</p> <p>「共感できる」 68%</p> <p>「協力して生徒指導に当たっている」 44%</p> <p>ウ (◎) 遅刻者数 5329件 20%減</p>
	<p>イ 就職希望者に対しての指導を強化し希望先への内定率100%をめざす。</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な機会を通じて部活動の魅力や意義を伝え、部活動への参加・加入率を高める。 ・クラブ体験期間の工夫、「クラブ加入率を向上させるための手立て」を考える。働きかけ時期(5月中旬の中間テストまで)も工夫する。※新しい取り組みの実施 ・港カップの実施や、スポーツ講演や講習会の実施 ・地域連携を強め地元中学生との連携を強める ・部活動連絡会やリーダー講習など一体感連帯感の醸成 ・部活動で頑張る生徒や成果を紹介し存在感を高める工夫 	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験行事の回数を増やす (H29:2日) ⇒ 5日 ・部活動連絡会やリーダー講習の実施数 ・港カップ杯イベント、スポーツ講演や講習会の実施数 	<p>(4) (△) ア (○) 部活動参加率 58%/+6%。特に1年生65%はクラブ体験行事の回数を増やした成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験入部の回数を10日 ・部活動連絡会10回実施 ・部活動講習会2回実施 ・港カップ杯イベント1回 ・中学合同練習会延べ5部11回 <p>イ (△) 「学校に行くのが楽しい」 64%</p> <p>「行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 67%</p> <p>※台風休校により文化祭1日開催が影響か</p>
	<p>ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立する。</p> <p>(3) 規律ある高校生活の実現をめざし、「人間力」を育成する。ルール、マナーの遵守と規範意識の醸成を図る。</p> <p>ア 「情報リテラシー」の育成 情報モラルの育成に努める。</p> <p>イ 挨拶・服装・頭髪・装飾品等の指導強化に取り組む。</p> <p>ウ 遅刻者数の減少に取り組む。</p>	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」を (H29:64%) ⇒ 70% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(H29:71%) ⇒ 75% 	<p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校に行くのが楽しい」を (H29:64%) ⇒ 70% ・「学校の行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」(H29:71%) ⇒ 75% 	<p>(4) (△) ア (○) 部活動参加率 58%/+6%。特に1年生65%はクラブ体験行事の回数を増やした成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クラブ体験入部の回数を10日 ・部活動連絡会10回実施 ・部活動講習会2回実施 ・港カップ杯イベント1回 ・中学合同練習会延べ5部11回 <p>イ (△) 「学校に行くのが楽しい」 64%</p> <p>「行事はみんなが楽しくおこなえるように工夫されている」 67%</p> <p>※台風休校により文化祭1日開催が影響か</p>

府立港高等学校

<p>2 自己を確立し未来を切り開く力の支援・夢や目標を持った生徒の育成</p>	<p>ウ 生徒自治会活動の活性化と生徒のリーダー育成に取り組む。</p> <p>(5) 不安や悩み、障がい等のある生徒への支援の充実</p> <p>(6) 「違いを認め合い他者を理解できる豊かな心」を育む</p> <p>ア 「豊かでたくましい人間性」のはぐくみ</p> <p>イ 「グローバル人材の育成」</p>	<p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の課題について自治会を中心に生徒にも検討させ、運営委員会で概要案を作成する。 <p>(5)</p> <p>教育相談体制や支援教育体制の充実、保護者や関係機関との連携を強化し、情報共有に努め、必要な生徒に適切な支援・指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> SC や支援教育コーディネーターや学校生活支援カードを有効に活用 教育相談会議や生徒のケース会議の実施。その情報の校内の共有。支援方法や体制を確立。 <p>(6)</p> <p>ア</p> <p>人権尊重の社会づくりを進めるために、あらゆる教育活動を通じて人権教育を計画的・総合的推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年間を見据えた人権教育マップの作成。 <p>イ</p> <p>文化や習慣の違いを尊重する心を育むとともに、コミュニケーション能力の育成をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 公私連携校である樟蔭高校との交流をさらに発展する。 国際交流事業である合同ツアーに語学・異文化体験研修の色合いをプラス 交流のPRや広報につとめ、参加者をさらに増やす。 交流の参加生徒による報告会、写真展示等を全校集会・文化祭に実施し、生徒の意識の向上を図る。 大阪観光局や国際交流センターへの申し入れなどで、海外からの修学旅行等を受け入れも検討する。 国際交流委員会を活発に機能させる。 	<p>ウ検討・計画の進捗状況</p> <p>生徒自治会での検討回数 見直した行事・企画の数 (H29:1回、なし) ⇒検討 3回、見直し2つ</p> <p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会開催回数 (H29:20) ⇒ 25回 修学支援会議開催回数 (H29:5) ⇒ 10回 <p>(6)</p> <p>ア</p> <p>「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 (H29:63%) ⇒ 70%</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外交流参加者 5名 国際交流委員会開催数5回 校内交流会参加者 100名 	<p>ウ (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 検討回数2、見直し1 新しい取り組み ドミノ倒しイベント実施 小学校見守り活動 痴漢抑止バジージェザイン選考、 <p>(5) (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育相談委員会 25回 修学支援会議開催 11回 <p>※SSWを校長マネジメント予算で試験的導入2回</p> <p>(6) (△)</p> <p>ア (△)</p> <p>「命の大切さや人権について学ぶ機会がある」 64%</p> <p>イ (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 海外交流参加者 0名 国際交流委員会開催数5回 校内交流会参加者 280名 ツアー企画数 3回 <p>※同窓会・PTAなどの連携と理解から、国際交流基金設立</p>
<p>3 学校運営体制の強化・改善</p> <p>信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。「コア会議」、運営委員会が企画検討の中心となり学校経営戦略の具体化を推進。</p> <p>ア 各分掌が主導で校務にあたり、プロパー・ヘルパー制という考え方は廃止。学年は学年団として機能し担任団という考え方は廃止する。</p> <p>イ 各分掌は継続性・連続性のある3ヶ年計画を作成し、関係協力部・学年と協力して校務にあたる。</p> <p>ウ 「スクラップアンドビルド」の実践 実情に応じた、校務体制や学校運営組織を再構築し、仕事の効率化につなげる。</p> <p>(2) 「頼りにされる校務力」の育成 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る</p>	<p>(1) 組織力の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 「コア会議」を中心とした機動力のある組織運営 H31年度の授業形態の変更に対する準備を各教科・分掌・学年で考え、やれることから取り組んでいく H31年度の校時の変更に対する朝の生徒の流れの確立、勤務時間変更などの準備・検討 <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 各分掌内での仕事の役割分担の見直し、「担任だからできないとか、副担任だからやらない」を改める。 担任会を縮小し、学年団会議を拡大 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員数の減少を見込んで、各分掌が校務の取り組み方を考える。 分掌・学年マネジメント表を有効に使い関係協力部との協力体制を考察し、今までにない役割分担を考える。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年先・5年先を見通した校舎内施設の利用方法考察 校務分掌の改編とそれに伴う内規の整備 生徒指導Gと自治会G・保健部との有機的な連携 教務内規の変更と修正 会議の減少化や短縮化への工夫 教員研修の縮小化への工夫 <p>(2) 校内研修とOJTの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ベテラン教員による経験の浅い教職員への育成参加 メンターチームによる初任者への研修や支援を行う。 経験の浅い教職員への生徒・保護者対応、生徒理解をテーマとした校内研修の設定、 意見交換の場の設定「どんな学校にしたいのか」「そのために何ができるか、何をしなければならないか」を主体的に考察 提案型の学校運営参加のための、グループワークなどで意見提示ができる機会の設定 先進校視察や授業交流の実施 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> コア会議開催回数 (H29:25回) ⇒30回 学校教育自己診断(教員) 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」 「学校の教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている」 (H29:40・51%) ⇒50・60% <p>ア</p> <p>学年団会議の開催回数</p> <p>イウ</p> <p>学校教育自己診断(教員)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校運営に教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 (H29:45%) ⇒55% 「学校の教育活動について、教職員でよく話し合っている」 (H29:80%) ⇒85% <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> メンターチーム研修実施回数 (H29:2回) ⇒5回 新採教職員研修の実施回数 (H29:5回) ⇒7回 先進校視察実施回数 (H29:5校) ⇒7校 港高校を考える会の実施 (H29:3回) ⇒3回 	<p>(1) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来構想会議…30回実施。H31年度からの取り組みを検討。「港高校を考える会」1回スクラップ事項の検討。H31の大改革のための「決める会」15回 「各分掌や学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」33% 「教育活動全般にわたる評価を行い次年度の計画に生かしている」58% <p>ア (○)</p> <p>学年団会議の開催回数 1年は全ての学年会議・他は1月に1度学年団会議</p> <p>イウ (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「教職員の意見が反映されるような仕組みがある」 37% 「教育活動について、教職員でよく話し合っている」 70% 生徒指導Gと自治会G・保健部を統合し、校務分掌の改編 追認の在り方など教務内規の変更 職員会議の減少化(月1回) 教員研修の減少化(年3回) <p>(2) (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> メンターチーム研修実施回数 2回 新採教職員研修の実施回数 23回 先進校視察実施回数 6校 港高校を考える会 1回 H31年度を決める会 15回

府立港高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 学校運営体制の強化・改善 信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(3) 広報活動と地域連携の充実</p> <p>ア ホームページの適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。中学校訪問を継続し広報活動を活発にする。</p> <p>イ 地域連携を推進し、地域から愛される学校をめざす。創立 110 周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携態勢を推進していく。</p>	<p>(3) ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの新たな活用方法を工夫・検討し広報活動を充実する。更新回数を増やし、閲覧者を増加させる。 ・中学校への出前授業の実施。 ・広報活動の充実・・・年間の戦略計画を立て、中学校へのアプローチを学校説明会・合同説明会とともに考える。 ・新たな広報グッズの作成や管理・予算立て。 ・広報活動を分掌の仕事とする前段階のマニュアル化促進。 ・生徒による中学校訪問の企画等新しい企画を考察。 <p>・保護者の学校への関心を高め、学校との連携を強める</p> <p>・保護者と生徒の学校への意識の差を縮める</p> <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域清掃活動の実施 ・老人会などとの地域連携・地域のフェスタへの参加・小中学生との部活動交流などの新しい取り組みなど考える ・挨拶運動、校外美化活動の継続実施、港区役所、波除町会、波除保育園、波除小学校、市岡東中学校（他地元中学校）と連携した企画を実施する。 ・110周年記念行事への準備委員会の設置と企画検討 	<p>(3) ア 更新頻度 (H29: 1/1W) ⇒ 3日に1回</p> <p>保護者「HPを閲覧することがある」(H29: 43%) ⇒ 55%</p> <p>中学校への出前授業 (H29: 4回) ⇒ 5回</p> <p>新規の企画数 (H29: 2企画) ⇒ 3企画</p> <p>学校教育自己診断アンケートの回収率を高める(保護者)(H29: 60%) ⇒ 70%</p> <p>学校教育自己診断アンケートの「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正(教職員・保護者・生徒の差 H29: 90%・85%・70%) ⇒ 15%程度に</p> <p>イ 実施企画数</p>	<p>(3) (△) ア (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更新回数 197 (昨年 100) 「HPを閲覧することがある」51% ☆「広報活動に取り組み、必要な情報は生徒・保護者・地域に向かって発信している」79% (H29. 58%) ・中学校への出前授業 4回 ・新規の企画数 1企画 <p>・回収率 56%</p> <p>・「学校へ行くのが楽しい」の肯定感の差を是正 77%・84%・67%で 17%</p> <p>イ (△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動による地域清掃活動の実施(サッカー) ・波除小学校見守り活動の実施 ・生徒会役員による挨拶運動 ・110周年記念行事への準備委員会の設置と企画骨子決定
	<p>(4) 教職員の長時間勤務の縮減</p>	<p>(4) 時間外労働縮減に向けた取組みの促進、勤務時間管理及び健康管理を徹底。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノー残業デー、ノークラブデーの徹底 ・労働安全衛生委員会で時間外労働の実態管理。 ・産業医や管理職との面接の実践。 	<p>(4) 時間外労働時間を 10%削減</p> <p>(H29: 80 時間以上 のべ 44 人 100 時間以上 のべ 20 人 総残業時間 27252 時間 月平均 2477 時間 1 人あたり月平均 45 時間)</p> <p>(H30 80 時間以上 のべ 40 人 100 時間以上 のべ 18 人 総残業時間 24500 時間 月平均 2230 時間 1 人あたり月平均 40 時間)</p>	<p>(4) (△)</p> <p>(H30: 80 時間以上 のべ 87 人 100 時間以上 のべ 51 人 総残業時間 26668 時間 月平均 2280 時間 1 人あたり月平均 35 時間)</p>